## iPad(GIGA 端末)活用実践事例

宇都宮大学共同教育学部附属小学校:指導者:渡邉 明子

学年	教科・領域等	単元名・題材名等			
3	道徳	身近な自然に目を向けて(教材名:ヤゴ救出大作戦)			

## 1. iPad 活用のポイント

# (1) 本時のねらい

ヤゴの救出をする小学校の取り組みを知ることを通して、自然環境を守っていくためには様々な努力をする必要があることに気づかせ、自分たちでできることはないか考えていこうとする実践意欲を育てる。

#### (2) 活用アプリ

ロイロノート

(3) GIGA 端末以外で利用した機器

なし

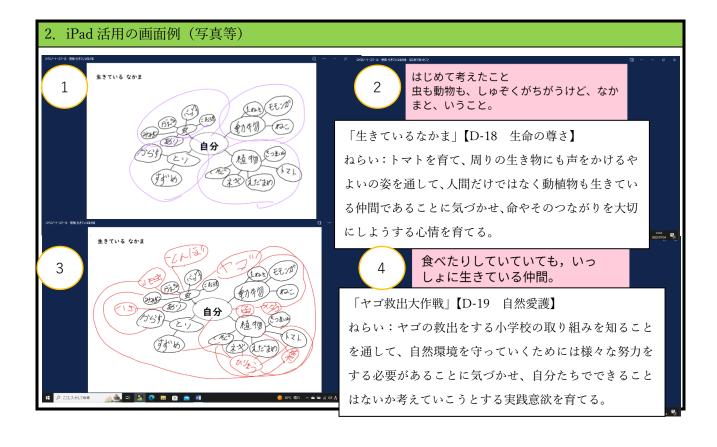
(4) アプリの活用場面と目的

■ オンライン

] | オフライン

### 授業での活用場面 (授業概要)

前時(教材名:「生きているなかま」、ねらい:「トマトを育て、周りの生き物にも声をかけるやよいの姿を通して、人間だけではなく動植物も生きている仲間であることに気づかせ、命やそのつながりを大切にしようする心情を育てる。」)の授業内で自分シート(写真①、自分の周りの生きている仲間をかく)を作成した。本時(教材名・ヤゴ救出大作戦)において、自分シートを再び活用し、ペンの色を変えて身近な自然について書き加えるようにした。(写真②)



教材「生きている仲間」の授業において、自分の回りの生きている仲間について考えさせる際、自分を中心として仲間を書き込んでいくようにした。ウェビングマップで関連させながら書き足していき、友達とタブレット機器を用いてマップを共有することで、さらに仲間を追加していくようにした。そのマップや友達と話し合ったことをもとに、授業の振り返りを行った。振り返りでは、教材について話し合ったり自分マップを作ったりして「はじめて知考えたこと」という視点を与えて考えさせた。教材「ヤゴ救出大作戦」の授業内で、ヤゴを大切にしているのは「生きているなかまだから」という発言があり、前時の内容を思い出す時間と、マップに追加する時間を設けた。色を変えて記入することで、思考の変容を見取ることもできた。

身近な生き物たちや、その他自分に関わる人々など、授業内で改めて可視化する時間を設定することで、自分のこととして考える児童の様子がより多く見られた。

3. 効果と課	題								
(1) iPad (	アプリ	)を活用して効果的だ。	った点	Ĩ.					
一斉学習		教師による教材の提示							
個別学習		個に応じた学習		調査活動		思考を深める学習			
		表現・制作		家庭学習					
協働学習		発表や話し合い		協働での意見整理		協働制作			
		学校間の交流		家庭学習					
<ul><li>前時にま</li></ul>	とめシ	イート(自分マップ)を	活用す	することで、学びのつな	がりを	意識して考えることが			
できた。35時間の授業はこま切れにならず、重なり合っていた。									
・ ペンの色を変えることで、書き足したり、分類整理したりすることが容易にできる。また、過去									
の学習で作成したシートを簡単に引き出して使うことができ、ワークシート等の紛失も防ぐことに									
つながる。									
· 回答共有	機能の	活用により、友達の考	えを矢	口って自分のシートに生ス	かす流	れができていた。			
(2) iPad (	アプリ	)を活用して課題に感じ	た点						
一斉学習		教師による教材の提示							
個別学習		個に応じた学習		調査活動		思考を深める学習			
		表現・制作		家庭学習					
協働学習		発表や話し合い		協働での意見整理		協働制作			
		学校間の交流		家庭学習					

- ・ 個人の作業時間が多くなるため、協働での活動時間を確保しにくかった。
- ・ ほかの授業でも作成したシートや振り返りの蓄積の仕方、過去の学習との関連を考えさせる活用 法など、さらに工夫していく必要がある。
- ・ 言葉で自分の周りの自然や人々についての記述が難しい低学年などには、写真や絵で蓄積していける可能性がある。週1回の道徳の時間と日々の生活とのつながりを意識できるアイテムとしての活用を探っていきたい。